

60歳代男性、単独。三菱山経由で駐車場へ帰る予定が途中でショートカットのルートに変更。途中で道がなくなり藪を漕ぐも救助要請した。



途中から藪漕ぎ

ルートをショートカット

盤溪山

遭難者は、午前10時20分頃標高350メートル付近を下山中、登山道をショートカットしたところ道に迷い、自ら110番で救助要請（道警へリが遭難者を発見し、札幌市消防へリが遭難者を救助）（HP参照）

この日は、9月にしては気温30度近くの暑い日であった。ショートカットして時間短縮をして駐車場まで帰りたい気持ちがあった。また、途中で道がなくなっても数百メートルの藪を漕げば道まで出れるという願望もあった。こうなると万が一道が無くなっても「あと少し」という気持ち。「藪漕ぎ頑張れ！」という心理に陥ってしまう。この「頑張れ！」という心理は、「目標」が生まれているので引き返すという選択肢はもう存在しない。直線距離で数百メートルの藪でも、「単独」、「暑さ」、藪を漕いでも道が現れない「不安」に負けて救助要請をすることとなった。結果、救助された場所はあと100m進めば道に出る場所だったという。

「道迷い」と「遭難」のターニングポイントは、「あれっ？おかしい」と思った時だが、最初から「あと少しで道に出るはずだ！」という願望が生まれていたのでは、戻ることはできない。オリエンテーリングの大会では道のないところを走ることは当たり前であるが、登山において道ではないルートを歩くことは、技術に自信を持っていないとお勧めしない。地図とコンパス。地図アプリは必要不可欠な存在で十分活用してほしい。